

~Mirary soa~

マダガスカル通信
第11号
2023年6月28日

◎プロフィール

名前：光成 沙也加 (MITSUNARI Sayaka)
隊次：2021年度4次隊 (2022/4~2024/4)
職種：看護師
派遣国：マダガスカル
任地：アンチラベ (首都から南に車で4時間)



◎売れ残った布ナプキンの販売

日本祭りで布ナプキン**を100枚売る**ことを目標に、仕立屋さんに布ナプキンを作製してもらいました。結局売れたのは**25枚**のみ。売れ残った布ナプキンを保健ボランティアさんをお願いしながら各地域で売ってもらっています。布ナプキン自体の反応はよく、興味を持ってもらえるのですが、値段が高いのが引っかけりなかなか買ってもらえないのが現状です。

農家の人の1日の賃金は約105~120円、布ナプキン1セットの値段は約105円なので、農家の人の1日の賃金相当です。今回布ナプキンの作製・販売を行ってみて、需要に見合ったものを作ること・売ることの大変さを痛感しました。“漏れて困っている”という点に焦点を当てすぎて、農村の女性や子どもたちへの**事前調査が不足していた**という反省点がありました。



保健センターに貼ってもらった
宣伝用のポスター



販売用の布ナプキン



布ナプキンを作ってくれた
仕立て屋さん

その後保健ボランティアさんや仕立屋さんで相談して、今回作製した布ナプキンは、**使い捨て紙ナプキンを使用している人**をターゲットに売ることになりました。ちなみに、**紙ナプキン**を購入するには、**10枚で約90~150円**かかります(布ナプキン約1セットの値段と同じぐらい)。布ナプキンは**繰り返し洗って2年間使える**ので、ゴミが増えず環境にも優しいです。布ナプキンを使って、笑顔になれる人が増えるといいなと思います。

そして、農村の女性や子どもたちに向けた活動も引き続き考えていきたいと思っています。

◎マダガスカルの独立記念日！！

6月26日はマダガスカルがフランスから独立をした日です。今年で**63周年**になりました！マダガスカル人は**愛国心が強く**、マダガスカルの文化や生活、言語をとて大切にしています。マダガスカルの中核都市では、駅前通りの「**独立大通り**」と名付けられることが多いです。また、日本人の認識ではマダガスカルは“**アフリカの一部**”ですが、マダガスカル人は“**マダガスカルはアフリカではないし、アジアでもない**”、“**マダガスカルはマダガスカルだ！**”と言っており、どこにも属さない人種だというアイデンティティを持っているように感じます。

6月に入ると各家庭でマダガスカルの**国旗が掲揚**され、街中で**マダガスカルの国旗色の提灯**やオモチャが売られるようになります。独立記念日前夜の25日には、駅前で**花火**が数十発上がりました！多くの出店があり、光るオモチャを持った子どもたちと家族が独立大通りの前に集まってお祭りを楽しんでいました。当日の26日は、朝から**パレード**が行われました。独立大通りを職場や学校、地域団体などさまざまな団体が練り歩きました！

そして今回、お祭りごとがあると必ず現れる**巨大観覧車**に初めて乗ってみました！！骨組みや座席は全て**組み立て式**で、お兄さんたちがぶら下がりながら**手動で回して**くれます・・・！！スピードも時間もお兄さんの気分次第です(笑)。てっぺんからの街の景色は最高によかったです！



街に並ぶ提灯とオモチャ



パレードの様子



観覧車を回すお兄さん



歌をうたう双子の女の子

◎お母さん、子どもと マダガスカルカラーの提灯作り！

通っている施設でお母さんと子どもたちと独立記念日前に、マダガスカルカラーの提灯を作りました！！**七夕**も近かったので日本の七夕を説明して、七夕飾りの紹介も兼ねて作りました。赤色、緑色、白色の折り紙を切って貼り合わせて提灯型にします。まだはさみを使えない小さな子どもが一生懸命のり付けをしていて、それをお母さんが隣で見守っている姿が微笑ましかったです。

そして完成した提灯を持って、双子の子たちが繰り返し何かの歌を歌っていました。その時はどういう意味の歌なのか分からなかったのですが、後日他の隊員に聞くと「**提灯よ、燃えよ燃えよ燃えよ！**」と歌っているとのことでした。独立記念日の前夜には、提灯の中にロウソクを入れてその歌を歌いながら歩いている人を見かけ、マダガスカルの文化に触れることができました。



完成した提灯と一緒に